

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立 千鳥 小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字学習などは、繰り返し指導し、定着を図ってきた。
- ・書く力を高めるために、語彙力を増やす必要がある。そのために、読書活動や、分からない言葉を辞書で調べることを習慣化させ、使用できる言語の数を増やしていった。
- ・話すこと聞くことの向上を目指すために、グループ活動や話し合い活動を通して、他者の考えとの相違点、共通点を考えながら最後まで聞く意識を高めていった。また、タブレットを活用して互いの意見を閲覧できるような活動を行い、友達の考えを参考にして更に自分の考えを深められるような学習の展開を意識的に取り組んでいった。

(2) 課題

- ・課題に対する自分の意見や考えを、形式や書き方の指定なく自由に書くことができない児童が目立つ。特に高学年は、文章の構成を自分で考えて書くことを苦手とする児童が多い。
- ・高学年になるにつれ、漢字の読み書きに個人差が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った ・…目標値と同程度 △…目標値を下回った

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	◎	/	/
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	/
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語との関係について理解が不十分であった。 ・日常的に表現する文章において、既習の漢字、および言語を使用することを苦手とする児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをもとに、考えと事例との関係を明らかにして文章を書く問題の正答率が良くなかった。 ・自分の意見を話したり、相手に伝えたりする機会が増え、話の順序を考えたり、内容をよく精選して分かりやすく話したりしようとする様子が見られる。文章を書いた後に読み直しをし、添削したり加筆したりする力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解答形式が記述のものに関する正答率が、目標値に対して同程度なものが多い。 ・学習意欲は高く、発言やノート、読書活動に積極的である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きの正答率は、個人差が大きい。 連用修飾語についての問題の正答率が良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率が良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定された長さで文章を書く問題の正答率が良くない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ノートやワークシートに教科書や板書を写す活動を通して、文字の表記に関する事項の定着を図る。 平仮名、片仮名、漢字の小テストを定期的に行い、定着を図る。 更なる定着を図れるよう、漢字学習では、漢字の部分に注目させたり、文章の中で使えるよう、問題作りを取り入れたりしながら指導し、漢字に対する興味・関心をもたせる。特に、送り仮名、熟語の練習を多くし、日常の中で漢字を使いこなす力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取ったことを復唱したり、他者に伝えたりする活動を多く行い、大切なことを漏らさずに聞き取る力を高める。 教科書や教師のモデル文を手本にし、文章を書く学習を継続して行わせる。自分の思いを表現することの楽しさを実感させ、書くことに対する苦手意識をなくす。 順序立てて書く力を付ける。日記や短作文などの指導を宿題や授業で継続的にを行い、事柄の順序を考えたり、組み立てを意識したりしながら書く力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさや速さ、姿勢など、具体的に気を付けることを意識させながら音読をさせ、声を出す場を日常的に多く設定する。また、スピーチなどの活動も定期的に行い、全ての児童が一人で話す機会を増やす。 ペア学習やグループ、学級全体など、伝える対象を変えながら、伝えたいことを意識させて話させる。話し合いの場面を増やして、自分の考えが深まったという実感を体験できるようにしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で、学習した漢字を使うように指導する。漢字の宿題や音読は、日々繰り返し練習し、定着を図る。 漢字を定着させるために、スキルや小テスト、タブレットを使った学習を通じて、反復練習する。 授業中や家庭学習において、語彙を増やすことを目的として、読書学習司書と 	<ul style="list-style-type: none"> 読解力を高めるために、登場人物の心情や場面の情景を丁寧に指導する。挿絵から分かることを考えさせたり、イメージを共有したりと、視覚的に理解できるような指導を心がける。 説明文では、「はじめ、中、終わり」の構造や、問いと答えの関係、段落相互の関係に着目させ、筆者の主張や意見を正しく読み取つ 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で話をするのが苦手な児童が話しやすいように、ペア・グループでの話し合いをもとにしながら、全体での意見交流をするなど授業の中で工夫した活動をする。また、意見を話す際には、理由を交えて伝える意識を高めさせる。 主体的に学習へ取り組む意識を高めるために、自分で

<p>連携して本に親しませたり日記や自学ノートで少し長い文章を書く経験を積ませたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや発表場面において、伝えたい内容を聞き手が理解しやすくなるために、主語述語の関係が正しいかどうか見直しの時間を確保する。 	<p>たり考えたりする活動を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、登場人物の心情や性格について、場面ごとのつながりと結び付けて、具体的に想像できるような授業構成を仕組む。 ・書く活動においては、内容の中心を明らかにさせたり、相手意識をもった表現を意識させたりする。日記の課題や振り返りの場面で、自分の考えを書く機会を増やす。 	<p>考えたことをペアやグループに発表したり、全体で共有したりする時間をとる。相手の発言に対して必ず反応をうながすなど、双方の意思表示を通して話し合いを活性化させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実のために、教科書に掲載されている「言葉のたから箱」を活用する。また、漢字ドリルや読書活動、調べ学習等で、分からない言葉が出てきたときには、積極的に辞典を用いさせる。
--	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストや、練習を繰り返して行うことで、漢字の確実な定着を図る。 ・言葉を正しく使えるようにするために、語句の意味を確認したり役割を確かめたりする活動を繰り返す行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く力を養うために、自分の考えを具体的に書いたり、学習の振り返りを文章で書いたりする活動に取り組んでいく。また、行事の感想などを作文で書くことによって、書く力の向上を図っていく。 ・内容の中心となる語や文を見つけられるように、キーワードやキーセンテンス、文章構成に着目させるなど、構造の把握の学習段階をしっかりとる。 ・思考が深まるように、対話する活動の時は、何を伝え合うのか明確にしてお互いの考えが深まる活動になるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを他者との交流を通して広げたり、深めたりできる姿勢を養っていく。 ・漢字や語彙、読み書きなど、身に付いた力を、他の教科にも活用する態度を養う。 ・見通しをもって学習に取り組めるように、単元の進め方や毎時間の学習計画について、単元のはじめに児童とともに学習課題を作る指導計画を立てる。